

# 特集

## 脳科学と心理学（1） 幸せな相乗効果を求めて

脳科学の流行は心理学のありようにも影響を与えています。ただ、脳という言葉はとても危険で、「脳がナントカ」と言えば人は信じやすく、神経神話と言われる非科学的な説が生まれやすいことが知られています。心が心臓ではなく脳にやどることは今ではよく知られているので、脳科学が進歩すれば心理学は要らなくなるという還元論があります。一方で、脳科学が明らかにしたことの中には、ずっと以前に心理学が発見したことの追認が多いという意見もあります。両者の関係に警戒感を抱く人も少なくないようです。脳生理学者のヤング（1978）は、脳というハードウェアの動きの研究よりも脳のソフトウェアの研究が大事だと述べました。電子回路の電流を調べてもPC上で動いているソフトが何をしているかは分からないという洞察です。心理学はいわば行動から心のソフトウェアを研究する学問と言えるでしょう。この特集では、脳科学と心理学がウィンーウィンの関係で成功する可能性を、それぞれアプローチの異なる先生方の経験と研究から探ってみたいと思います。

（小田浩一）